

## 平成 26 年度まちづくり懇談会会議録【嶺田地区】

日 時 平成 26 年 10 月 29 日 19:00～20:30  
会 場 嶺田地区センター  
参加者 30 人

※「菊川市 10 年の歩みと今後のまちづくりに向けて」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

### ●10 年間のまちづくりを振り返っての所感・ご意見

#### ●自治会長

この 10 年間に於いて嶺田地区で感じることは新しく道路の改良が行われた所や、新しい施設が出来た所は人も集まり活気づいているが、取り残されている場所は静まり返っています。幅広く光を当てるように取り組んでいく必要があると考えられます。

#### ○市長からの回答

この 10 年間で多くの事業に取り組んできました。コミュニティを充実させていこうということで、最初の 10 年間は地区センター、コミュニティセンターの建設に取り組んできました。嶺田地区は建設が遅くなってしまいましたが、地域の皆さまのアイデアで、このような素晴らしい施設を作ることができました。

道路整備については、限られた財源の中で交通の利便性を高めるために、まず掛浜バイパスの整備に取り組みました。全地域に、同時に整備に取り掛かることはなかなかできませんが、地域の利便性を高めるために、地域の皆さまの意見を取り入れながら、まちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。

#### ●東嶺田 男性

嶺田地区の中に都市計画税を納めている人が 30 数件あるが、非常に不公平感を持っています。嶺田地区の中に、現在進めている都市計画があるのかを教えてくださいたいと思ひます。

## ○建設経済部長からの回答

東嶺田から下組を通して、青葉通りにつながる道路が都市計画路線として計画に入っております。

## ●東嶺田 男性

数年前、課税対象の人に対して、都市計画路線の端が嶺田地区にかかっていると説明はあったが、道路は地元の人よりも、通る人の利用度の方が高いと思います。嶺田地区そのものへの都市計画を考えてもらわないと、税金を納めている人にとっては非常に不公平感があります。税金を払い、「嶺田にもいいものができた」と満足感を得られるような計画を立ててほしいと思います。

## ○「安心・安全」について

### ●自治会長

今世紀前半には、前回発生から 100 年を迎える東南海地震や南海地震について、その発生の可能性の高まりが指摘されていることや 3.11 の東日本大震災、日本各地で頻発している豪雨災害等、特に防災対策の強化が求められています。

①基本となる地域防災計画が、市民に理解できる説明会を開催し、本防災計画により、地域の特性や実状を反映した個別計画の策定が自主防災組織として必要です。

②菊川流域は県下 2 番目の軟弱地盤であることから、地盤改良等特別支援助成制度の創設が必要になります。

③情報伝達・情報提供については、同報無線デジタル化や臨時災害 FM 放送局の開設、総合情報配信システムの導入が見込まれています。正確な情報が得られるように、同報無線の屋外子局の増設が必要です。

④防災力や減災力を強化する組織として消防団があるが、更に機能できるような体制づくりが必要です。

### ○市長からの回答

① 毎年五月に自主防災会を実施し、説明していますが、ボリュームがあるのでなかなか大変です。ぜひ安全課の出前防災講座をご活用いただき、地域に合った防災計画をお願いしたいと思います。災害時の危険箇所は、地域の皆さんが一番良くご存知。地域に合った防災対策ができるよう、皆様のご協力をぜひお願いしたいと思います。

② 地盤改良等特別支援助成制度については、非常に難しい案件。軟弱地盤であることは十分承知しているが、軟弱地盤に対する補助制度はないのが現状で

す。ぜひご理解をいただきたいと思います。

- ③ 同報無線の屋外子局の増設は現在整備中です。整備できたら、地域の皆さまにお知らせさせていただきます。
- ④ 消防団員確保については、頭を悩ませているところ。地域防災のためにはなくてはならない存在なので、地域の皆さまにも団員確保にぜひご協力いただきたいと思います。

●西嶺田 男性

防災委員の報酬について。市として自主防災には力を入れて取り組んでいるにも関わらず、防災委員に報酬が一銭も出ていないのはなぜですか。

○危機管理部長からの回答

防災委員は市として委嘱しているわけではなく、団体の任意の活動であるため、手当は考えておりません。防災指導員に対しては、市がお願いしているものなので、若干だが手当を用意しています。

●西嶺田 男性

それならば、市が発行する役員名簿に防災委員の名前が載っているのはなぜでしょうか。

○危機管理部長からの回答

通知にて任意でお願いはしているが、選出されない地域もあるため、報酬は出さないことになっています。ご理解いただきたく思います。

●西嶺田 男性

以前この件で質問をしたときに、検討すると答えたが、検討の場は設けられたのでしょうか。

○危機管理部長からの回答

部内で検討し、この場でお答えさせていただきました。

●          男性

自助・共助として、自分たちで防災を意識しなければいけないことを考えると、防災委員は地域の中で重要な役割を担っている存在です。そのところを市としてもぜひ考えてほしいと思います。

#### ○危機管理部長からの回答

市長など大勢の幹部が揃っている中でいただいたご意見。これからぜひ参考にさせていただきます。これからも地域の皆さまにぜひご協力いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### ● 市民

安心・安全の説明で、原発のことに触れていませんが、菊川市として、浜岡原発の件にどのように対応するのか聞かせてください。

#### ○市長からの回答

現時点では、原発の再稼動を認める考えはありません。

#### ● 東嶺田 男性

以前、質問に対し検討するとの返答をもらったが、その後返事が来ません。返答するようお願いしたいと思います。

#### ○司会

対応させていただきます。

#### ● 西嶺田 男性

市長などの幹部が揃う貴重な機会ですが、参加者がとても少ない。もっと多くの人が参加する仕組みを作っていただきたいと思います。この会について知らない人も多いので、女性や若者も足を運ぶような会にしてほしいと思います。次に、夜のまちが暗い。防犯灯も少ないと思います。予算の問題もあるかもしれないが、夜でももっと明るいまちになるよう検討してほしいと思います。次に袋井市から浜松市近辺で構成された「地域医療を守る会」という素晴らしい団体があります。コンビニ受診が問題化されている中、重要な存在になると思われます。ぜひ行政としてもフォローしてほしいと思います。

住んでいると気付かないことですが、菊川市は他市に比べ、大変気候に恵まれています。生活していくのにとっても便利。ぜひアピールしてほしいと思います。

退職した60代で元気な人が多いと感じます。シルバー人材センターで紹介されるような仕事ではなく、それぞれの職で培ってきた技能や知識を活かせるような、地元のアドバイザーとしての活動を考えてほしいと思います。

#### ○市長からの回答

「住みやすいまちづくり」を進めるにあたって、ご意見はぜひ参考にさせていただきます。定住人口を確保するために、菊川市らしいまちづくりを、今後皆さんと情報を共有しながら進めていきたいと考えております。

元氣なシニアの方には、市が主催する「セカンドライフセミナー」にぜひ参加し、地域で生かしていただきたいと思ひます。

#### ○秘書広報課長

まちづくり懇談会の告知については自治会と相談していきたくて考えております。

#### ○危機管理部長

街灯は1年間で70灯を設置しました。今後も自治会からの要望に沿って、各箇所に順番に設置していきたくて思ひます。

#### ○健康福祉部長

地域医療を守る会について。去年9月にシンポジウムが開かれ、今年6月に設立に至りました。病院や健康福祉部も協力しているが、地域医療の問題を自分たちで考えてもらい、自主的に活動してもらうことが主旨になります。行政はサポートという形で支援していきまます。

### ○「**地域医療**」について

#### ●地区自治会長

地域の医療体制については、医師や看護師不足により厳しい病院運営である。2025年問題を含め高齢化社会は進展し、医療に対する需要は今以上に増加が見込まれる中、医療制度改革の推進など病院を取り巻く環境はさらに厳しい局面を迎えています。

医師確保対策として、家庭医養成事業「あかつちクリニック」が開設し、外来診療、予防事業に加えて訪問看護ステーション等と連携し、在宅医療や看護サービスも視野に取り組みがされています。今後、研修医を医師として確保することが必要です。

医療の負担軽減のためには、高齢になっても歩行や日常生活ができる予防対策としての取り組みが必要です。

「みねだ地域づくり協議会」スポーツレクリエーション部会では、健康づくり事業の一環として、グラウンドゴルフ大会やウォーキングを開催しています。高齢者や女性参加があり、グラウンドゴルフ場に洋式トイレの必要性があります。

嶺田地区は、老人クラブの活動により、輪投げ、グラウンドゴルフ、カラオケ等を開催し、地域間交流が活発で「元気一杯」であり、健康予防にふさわしい組織であり、他地区の組織強化が必要です。

#### ○市長からの回答

市では、市民の皆様が高齢になっても元気でいられるよう様々な事業を実施しています。特に今年からはロコモ予防に力を入れています。ウォーキングなどの健康づくりのための仕組みを、各課で連絡をとりながら計画していきます。また、「健康マイレージ」事業の準備を行っております。高齢者の方が参加しやすい方法を検討していきます。多くの方が健康に関心をもつような環境をつくり、医療費の削減に取り組んでいきたいと思っております。グラウンドゴルフ場のトイレ設置については、設置可能な環境であるなら、担当課に指示します。後日回答させていただきます。

嶺田地区の老人クラブは、日頃から大変活発な活動をされています。介護予防のために、今後より活動しやすい取り組みを考えていきたいと思っております。

#### ○「子育て支援」について

##### ●地区自治会長

少子化問題は、第2次ベビーブーム後、効果的な対策は出来ずに現在に至っていますが、市民一人ひとりの豊かさを確保していくためには、これまで十分な活用がされてこなかった女性や高齢者の潜在的な人材の活用を推進することで、市民一人あたりの生産性の向上に努めていくことが求められます。

仕事と家庭を両立できる社会づくりが重要。育児休暇等の制度の充実は、主に企業側の理解力による時短労働、時差勤務、男性の子育て休暇取得、また、地域のよる働く女性の子育て支援も必要になります。教育にかかる経済的負担に関する奨学金等含む経済的支援をお願いします。第3子以降の特別支援制度の創設と福祉医療費の助成拡充をお願いします。保育の量的拡大として、延長保育や病児保育、一時預かりや放課後児童クラブ等を含め地域子育て拠点として創設してほしいと思っております。放課後子ども教室に放課後児童クラブの子どもが参加できる体制を構築する必要があります。指定ごみ袋の支給やおむつ代の支援など含めた、乳幼児おむつ処理支援事業の創設も必要です。

#### ○市長からの回答

男女共同参画社会については、市内各事業所に働きやすい職場の先進事例等の提案を行っております。引き続きワークライフバランスの推進に取り組んで

いきたいと考えております。

教育にかかる奨学金等の支援について。義務教育の範囲では経済的支援を実施しています。就学援助費は、児童生徒が小・中学校へ通学するにあたり経済的な理由でお困りの家庭に対して、学用品などの一部援助を実施しています。また、学校長や民生委員などの意見を聞きながら、どのような援助が必要か協議を進めています。市としても、少しでも経済的負担を軽減できるよう取り組んでいきたいと考えております。

第3子以降の幼児対象の支援制度について。保育園の保育料の無料化を行っております。現在は、幼稚園の第3子以降の保育料についても無料化の検討をしております。児童手当については、3歳以降1子、2子の場合は10,000円ですが、3子は15,000円に割り増しになります。また、第3子以降の児童に特化した制度ではないが、中学生までのお子さんが病院にかかった場合の医療費助成を実施しております。

既存の保育園・幼稚園において延長保育や一時預かりを実施しております。また、病後児保育についても、今年度からおおぞら幼保園において取り組みを始めたところです。

放課後児童クラブについては、現在すべての小学校の敷地内に設置をしており、27年度から6年生までの受入を可能な施設から行っていく予定です。放課後子ども教室は、現在、市内9小学校のうち6小学校で実施しています。市としても放課後子ども教室に放課後児童クラブの子どもが参加できる体制づくりについて、現在両事業の担当者間で検討を行っている。今後も地域の方を含めて検討をしていくのでご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

ごみ袋やおむつ代などについては、様々ご提言をいただいております。参考にさせていただきながら、できるところから取り組んでいきます。